

ノーストリリア例会レジュメ

外縁からセンターピースへ

1. SF

今のSF人口がどれくらいか知らないけれどなじみのない人たちのために軽く
現実にはないものが実在するかのようにふるまう
リアリティではなくリアリズム
写実的空想

2. コードウェイナー・スミス

1913生、1966没

SF作家の中でも特異な作風を持ち、長大な彼の未来史の一風景を切り取るようにして短編を書く。言葉えらびも独特で、さまざまな言語にひっかけて遊びが随所に見られる。

作品世界観にかかわると思われる人物像

- ・父は軍人の高官、自らも後に軍人に
- ・幼少期をフランス、中国、日本などで過ごす。多言語話者。
- ・情報戦の研究者
- ・敬虔なキリスト教信者
- ・愛猫家
- ・内臓を患い、外科手術を繰り返す。
- ・幼少期からのSFファン、作品の構想を固めたのも学生時代

著作、刊行リスト

国内刊行済み

『鼠と竜のゲーム』

『ノーストリリア』

『シェイヨルという名の星』

『第81Q戦争』

単行本未収録

「宝石の惑星」

「三人、約束の星へ」

国内未訳

「嵐の惑星」

「砂の惑星」

「アナクロンに独り」

未完

「落日の補完機構」

その他、人類補完機構シリーズ以外は省略

3. 人類補完機構

コードウェイナー・スミスの独特な未来観について。

(黒板を用いてスミス世界の年表を書き示すわたし)

SF小説の中でも類を見ない、唯一無二の世界観

単一のジャンル、傾向に縛られるのを嫌い、様々な要素がちりばめられている

20世紀～160世紀あたりが舞台

キリスト教的価値観

3つのテーマというかモチーフ

- ・宇宙開拓史 (鼠と竜のゲーム)
- ・下級民 (シェイヨルという名の星)
- ・人類補完機構 (第81Q戦争)

4. ノーストリリア

コードウェイナー・スミス唯一の長編、当初は二作にわけられていた。

160世紀、人類補完機構世界の (刊行された中では) 最後期を描く

3つのテーマを総括的に扱う

プロットには蛇足が多い

『下級民が人権を手に入れるための組織が活発化するお話』

ロッド・マクバンの成長譚？

病気の巨大羊からとれる不老不死薬、質素な生活を強いるために不出来な子供を殺す惑星、
広域テレパス、わくわく要素はたくさん

ロッドにとって（読者にとっても）、地球は未知の世界であって、本作後半はその冒険小説
的な意味合いも強い。未知の世界を地球に求めるのはニューウェーブ的な要素でもある。

なんといってもク・メル。

『帰らぬク・メルのバラッド』、『アルファ・ラルファ通り』と同時代。

コードウェイナー・スミスいち、いやいやSFーかわいいヒロイン

人類の再発見について

5. もっと細々したもの

浅倉訳、特徴的な言い回しをよく表現する

多言語話者ならではのことば遊び多し

他のスミス作品について2、3触れさせてください

雑談。

最後にそれっぽいことを言ってまとめ

※国内で刊行された四冊の文庫の解説などを参考にしました。

手打ちなので誤字・脱字などあるかと思いますが文責は私です